1326

特5

2

護國鄙正日蓮滅亡論

松原少人著

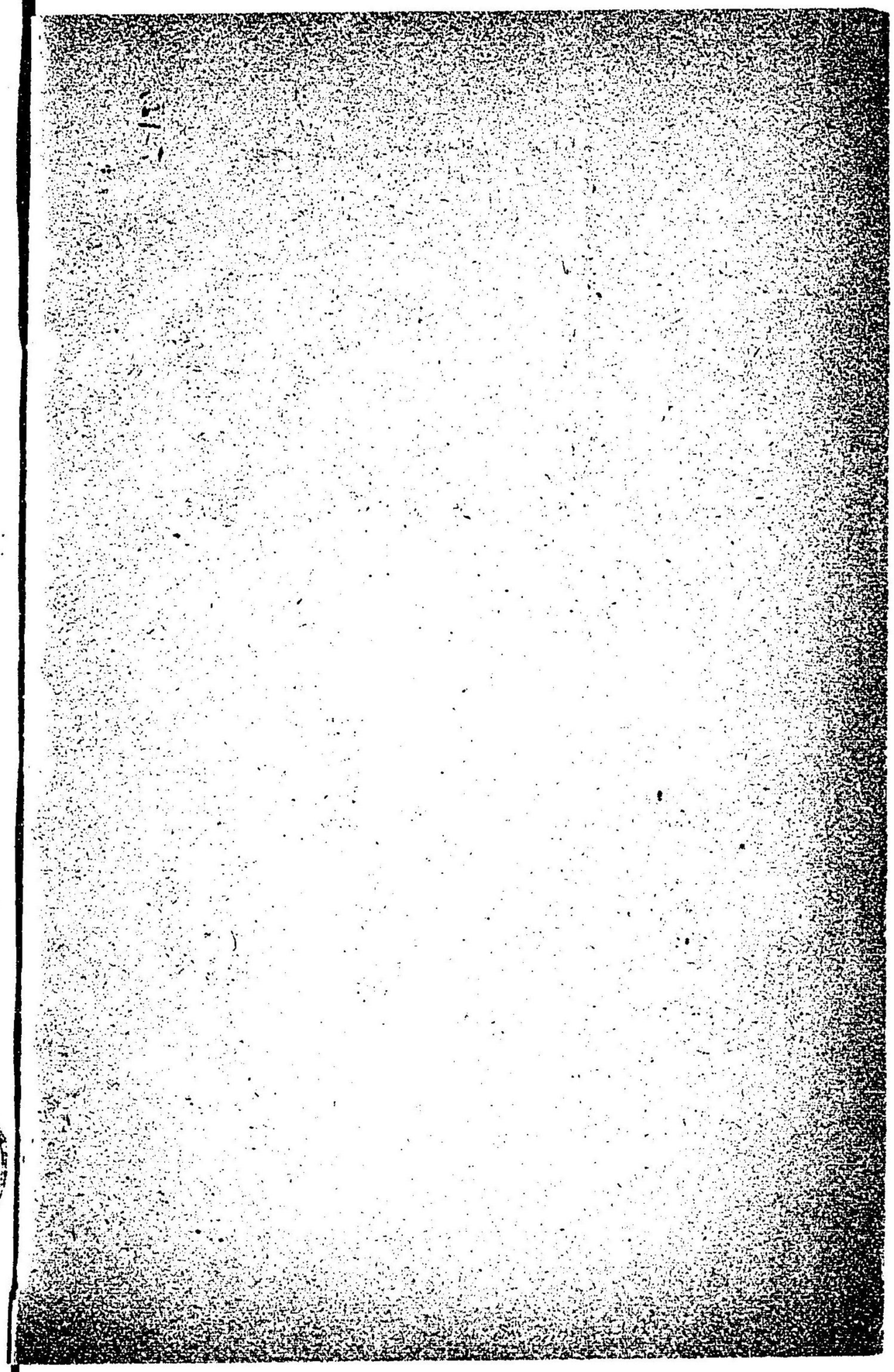
大隈佐版

紅葉園主人著書目錄

百草一味千論　上下　京都　出雲寺出版
仇櫻　完　大坂　駿々堂出版
真月茶話　完　京都　出雲寺出版
尊皇奉佛論　完　東京　明教社出版
基督贖罪論　完　福岡　大隈活版所出版
日蓮滅亡論　序論　仝　仝　所出版
仝　本論　上中下　近刻
護法城寶論　近刻
金天詩集　近刻
真月居士演說筆記　東京　博文館出版

特55
265

頭破正邪



法二位日蓮聖人

護國顯正日蓮滅亡論

紅葉園主人　安田真月居

序論

夫法花宗門の開祖たる日蓮小僧は東海道房州長狹郡東條の郷市河原村字小湊浦に誕生せり日蓮の父は漁民にして吾人皇八十五代後堀河帝の貞應元年壬子十月十六日に日蓮小僧と産み落したり其の血筋の如きは至極下等社會の落胤なり然れとも吾か法は四海平等にして而かも佛は一切衆生皆是吾子と愛愍し玉ふ故に四河海に入つて本名なく皆釋氏と稱すると云ふの公平大慈の法門なる

と以て各國各自の性質と問はす只た差別なく發心出家して菩提心と求むる素志と取て以て是とするなり豈に佛法の大海は種々無量の物の、集る處然れとも其の本名と詮策するに至つては中々之と分別する事愈々難し今亦一方の一宗と擧て論する所誠に著者の良心にあらされとも彼れ日蓮小僧の遺弟にして言論する所ろ不圖にも日蓮宗の外他の各宗は何れも外道なり邪教なり或は國害的の宗門なると以て目下之れと撲滅するは國家の爲め大法の爲め或は同肥三千九百万の爲めにとて言語同断口先き出放題と演説し且つ説教等と以て公衆と欺く

斯の如き者が吾佛教中に有るを見聞して苟も真正なる愛國護法の同感諸士豆ゝ嘆息の至りゝ堪へず之れと此の儘打捨つると云は不可なり誰れか柳々心中の逆賊無縁盲昧の青小僧を退治せぞして國家ゝい何と以て報ずるか將た三千九百の信徒と憐むの誠心なきか夫れ無明長夜の夢い佛の曽て誡むる處有爲活潑なる愛國護法の仁人君士國と治め法と盛んゝせん爲め誓て日蓮の豆小僧と脱籍せゝめん事と彼日蓮宗よりは八宗の各派外道邪教國外的の宗門と誹謗敵視爲たると以て茲に同心一致國家の良民と安んぞる爲め力めて豆小僧と退散すべ

し幸ひに天神佛陀も降臨せられ吾々が日蓮邪宗門と此の大日本帝國報土の大陸に埋葬すると指揮あること必せり亦日蓮の豆小僧の大鼓持坊主の申すには曰く釋迦一代四十九年の說法は八万四千の法門と言へとも法花八巻の外皆な妄誕虛說にして信ぜべき者に非らぜと故に日蓮の外は悉く邪道國害的の宗門なりと誹謗敵視する事言語同斷實に匹夫々々との爭ひよりも百段位ひ下等と見受けたるか實に慨然の次第なり否な被れも矢張り佛教中の者と思へは痛嘆限り無し嗚呼嫉妬深き邪念的妄想分別の味噌豆小僧は真正なる佛教の大慈大悲の功德教と以て三寶と誹謗敵視すれば世々生々罪と免るゝ事の能はざる事と說明せぜんば(各宗と誹謗する故に)衰れ果無くも長く墮獄の苦と受くる事火と見るよりも明かなると以て茲に同肥慈悲の親情と傾けゝて霧海の南針夜途の北斗と知らしめん然りと云ふも著者は敢て誹謗的不德の辯と好まず敵視的惡口雜言出駄ら目放題の事と好まず殊に本書と起草發兇と餘り好まざれぜも如何せん此の儘日蓮の豆小僧の如き惡漢邪智の盲昧者流と捨て置く時は第一國家の治安上の妨害も少からず且全國十有餘万の宗教相續者の本分とも失すると以て本書と起

すの原因と爲れり聊か吾法味の大慈大悲の平等功德力として目下日蓮の逆惡と退治と且つ汝が宗門の遺弟共が遠からず滅亡すると前知すへき者なれは篤と考へたる上で人間等しき良心と惹き起して末世になりと生れ變りて緣あらば完全無缺公平無私の宗門を開闢仕直せよ聞よ日蓮汝か如き濫果なる二尺五寸の井戸智惠と以て神聖なる日本國家の信徒を抱き込まんとするは無駄骨の折り損で勞て功なき有樣ならん如何となれば現今の社界は如何なる社界か熊の膽でも呑で氣と付て見よ文化の急進は一瞬千里の電信も啻ならず十歲未滿の小學童子も德義票準は口ぐせに唱ふる活潑自由の好時機なるぞ文學其の他百般の技藝學術の進行は日々汝が頭上を幾百返か飛び越すも知らんか汝が如き二尺五寸の泥井戸住ひの小學者は廣大無盡の活潑瀾博物競爭世界新古佛展覽の五大洲中眞理の博海舞臺も見聞せし事のなき者は左も有る可き次第只た氣の毒の外はなかりきなり斯の如き急進開發の時と云ふ事も知らざる汝も同じ吾々の同肥と觀ずれば實に外國の邪蘇教蓮にも面目もない事ぞ嗚呼日蓮小僧兩耳を栉除して善く記憶して置く べし汝は元來日本國土に產れて國家の安寧を害す而して

國王の恩を忘ずる者如来の恩と離却せり且つ汝か骨肉と分ちたる兄弟即ち各宗の祖師開山を誹謗せしは兄弟慈愛の恩を失したる者尚ほ師の恩を忘却し一切衆生の恩を失せし者にて人面獸心とは即今汝の事なる故自今精神を一洗し和合力の成就するときと他の宗門を誹謗すると止むるときが同時に汝か身に成就圓滿して而かも徳行と重んするの良心の出来たる時に汝じが墮獄すべきの大罪と免れ且つ汝が愛する子孫も無事に成長あて汝が開闢せし宗門も末世に持續出来る者なれとも万一本書と讀で嫉妬するが如きは世々生々誹謗三寶の罪晴る

ゝ期なし依て前非と悔ひ改めて千佛万祖の一にも加籍せらるゝ様今生より心掛げと爲すとそ汝か汝たる所以なる可し左れは是より汝豆小僧か佛教諸宗と敵視誹謗する處の次第と著明すべし日蓮よ心があらば夫れ能く記憶せよ汝か誕生は佛滅后二千一百七十一年に當る其れより後の天皇八十六代四條帝ノ天福元年癸巳五月十二日か汝か年齢に二歳なり其の歳汝か生れたる近傍の清澄寺に參り全寺住職道善坊の弟子と成りたる事疑ひなし

同帝の延應元年己亥十月十八日汝じ十八歳にして出家して名と是性と呼ぶ字は蓮長と云ひしか後に

自ら日蓮と稱せり然る處其後十五年間各地諸方に遊學して生年廿二歳の時人皇八十九代後深艸帝の建長五年癸丑三月廿二日の夜より七日間室内に入りて邪思惟と惡起し仝月廿八日曉天に至り大陽に向ひ掌を合せて其の時始めてひげ題目の南無妙法蓮花經の七字を唱へて曰く念佛無間禪天魔真言亡國律國賊と云ふとの四箇の格言を立て、以て各宗諸派を折伏して其れより一宗を開闢して法華宗とは日蓮の豆小僧か自ら稱号したる者なり諸宗よりは之を日蓮宗と云ふ其の原無量義經の中に四十餘年未顯真實と云ふ一句の一文に辯執して法華以前の諸經論を誹謗して虛妄方便とか無得道とか或は墮地獄の法と惡口す然して亦法花經八卷を說法する以前の大聖釋迦文佛を誹謗して殺盜婬妄酒說過罪自讚毀他慳貪瞋恚誹謗三寶の釋迦佛だと云ひ或は法華說教以前の諸教論は基ねて成り立たる諸宗門を皆悉く邪念嫉妬なて之を無得道と謗ぢ或は邪宗門外道の魔法と云ふ實に日蓮は井中根性を以て廣大の天地を眺め幾万卷の寶藏と視て夢め現の如くは觀覺して人間不德の事を云ひ出ぢたるならん實は悶然なる小僧と云ふべし然るは三朝高僧傳に稱歎讃美せらる諸宗門の智識高僧の諸大德を悉く

罵詈嫉妬をして曰く彼れ諸宗の僧侶共か高僧の善智識のと誇たる生き行き言葉を以て世間の信徒を欺く故に彼等諸宗の者は愚痴邪見の惡賊比丘なりと讒言し且つ法花説法の外妄語に依て〔忘語とは法花經以前の諸經論と忘評して云ふ也〕宗門と立つるが故今生は蝗蟲となり後生は無間地獄の犯罪人となる又天台宗の慈覺僧都にもせよ智證大師と雖とも皆蝗蟲にして無間の大罪人なり依て彼等僧侶の生き頸と引きゝり命と取たるが第一の功德なり大慈悲の親切なり尚ほ諸宗門の大伽藍とば悉く燒き捨つるが一大善根と云ふ可き者なり震旦日本に於て

唯天台大師及び傳教大師のみ法華經と弘通するが故に真實の正師と呼んで差し支へは無けれども此の両大師も其の實像法過時の弘通なると以て末法今時の用には立たざると恰かも去年の暦と取り出して今年の用に立てんとするに同じたた公平無私の明師と仰ぐものは日蓮一人のみにして末世成佛の大法門と覺知せりと斷言せり畏くも吾々臣民が尊敬し奉る日本國中の諸社三千七百有餘の神社は日蓮の勸請せし神に非らざると以て皆な邪神惡鬼魔道の栖家となると神と謗する事限り無し殊に伊勢の太神宮正八幡及ひ春日等と始めとし扶桑六十

餘州の神社へ參詣する人は悉く無間の大地獄へ墮在する事疑ひなしと日本皇帝の御先靈と敵視する事言語同斷にして愚痴盲昧の狂乱小僧とこそ云ふの外なし否國家の大賊と云ふ者なり然るに日蓮魔迷小僧曰く唯た日蓮が寺の神宮へ參詣すべし之れに參詣する者は必ず利益と得之れと謗する者は今世獄に落在すと又世間一切の堂塔伽藍の靈佛靈像は皆な昔し真言宗の邪魔坊主の開眼供養せし佛像なる故に實佛に非ず皆魔佛なり依て世々生々の衆生繪像木像と禮拜供奉する者は皆現世は勿論世々生々無間地獄の患苦と受て其の苦惱と免がるゝ事なしと云て諸人に説くに神社佛閣の參詣を堅く止めたりと云が之れが則ち法花の法知らずと云ならん愍笑なるかな日蓮汝が議論は笑止千万馬鹿より外に聞くものなし然り日蓮は此の神聖なる大日本の報土に誕生しながら國恩と忘却せし者也とす故に此の神國々土と侮りて小島と曰ひ或は帝王と輕じて小島の主君杯ト云ひ且つ島の長者なぞゝ云ふ之加からず甚だきは王城の燒炎と聞て國の滅亡するなるし杯と云て悦び如何に皇帝と雖とも將軍と雖ども其の他大臣參議下も吾々臣民に至る迄日蓮宗に非ざる人々は惡王なり魔將軍なり且つ邪臣民

にあて怒れにも今生には法花の大惡敵となりて罪亡びずして來世には無間地獄に墮在する也と誹謗嫉妬し或は皇帝の難に逢わんとゝ玉ふ事あらは〔吾々臣民の希ふ所ゝ非されども〕彼れ日蓮は諸天諸神に向て國土の亡ることを呪詛せり若ゝ邪思惟嫉妬の念力呪詛の叶はざるときは一生懸命にゝ諸天神に怒り遂に止むなく諸神は天上の大逆魔說となすに至ると云ふ實に驚き入たる逆惡の法賊ならん夫れ誰れか生て國家を愛せん者はあらじ學んで眞理と愛せん人はあるまじ左れば日蓮小僧は此の國土に生を受け柄ら國の亡ぶるを呪詛祈誓と云々國賊と云はゞして將た何とか云はん夫れ日蓮が他宗を嫉妬して止まざるは其女の腐り根性より隔十段位い下等と云ふの外は在まゞ元來日蓮の魔迷小僧は至極卑賤の種族にして先祖類代梅陀羅の血筋否梅陀羅の本家に出生せし者にて世間何れも少し心の有る人々は交際も斷つくらいの有樣なるを以て餘り誇つて教導職の御太將等しき顏を映じて邪法を說くも虫類ならばいざ知らず苟も日本神國の臣民たる同肥兄弟は決して聽聞せざるなり〔然ゝ當時は梅陀羅の吾々の差別なく一体の臣民なる故交際はするなれども昔しは如斯しと云譯だ〕止めよ日蓮汝か

如き社會の真理を昧まし道理に合はざる妄信邪說の布教は止めよ天下の害物となる全体汝は自讃高慢自ら我は當帝の父母とか念佛禪宗真言律諸宗門の師範なりとか或は主君なりとか種々口に出放題と述る事限りなしたかのみならず大日本國の大棟梁或は閻浮提第一の智人で日蓮に肩と並べる者は一人もなしとか云へり汝は實に強慢無智の外道と謂つべき者なるが又日蓮は自ら誇て曰く我は釋尊の上使にして上行菩薩の化身なりと謂つて愚夫愚婦を誑惑する爲に三類の強敵と云ふ者と作つて真言。禪。律。念佛は申すに及ばず日蓮宗に非ざる國王大臣

諸官天下の執權國主万民に至る迄皆な邪人邪民の俗衆と云て法花の敵とせり然れば日蓮小僧は吾が帝國に在つて我が宗門と信ぜざる吾國朝野の貴顯紳士及び八家九宗の宗門と法花の怨敵なりと云ふ然れば吾朝王臣の三千九百万人八家九宗の爲めゝ日蓮は是れ吾が怨敵なり天皇に對し奉るときは朝敵なり國家に對するとき國敵なり臣民に對するときは吾々の大怨敵なり世尊ゝ對すれは佛敵なり大法ゝ對しては法敵なり宗敵なり神を誹謗して且つ之を敵視する故に神敵なり僧敵なり社會の真理と昧ますか故に世界の真理敵なること敢て著者が妄

論に非ざる也たゞあわれなる者は日蓮宗旨にして日蓮を信仰する者は未来墮獄の苦は免れ難し其のゆへ如何となれば彼の宗旨の者一生の間寸悪をも犯さゞして五戒乃至八戒等の諸の戒行を持て一切経経と空らに済べて一切の諸佛諸菩薩を供養讃歎し無量無邊の大善根を積んで法花經を幾千万部讀書きし且つ一念三千の觀解を得たる人と雖ども餘の法花經を用ひざる謗法の念佛者連よも語(カタライ)となして法花經と末代の機に叶はずと申す輩と科(トガ)と思はず法花經の敵と責ぞんは得道成難く阿鼻大城に墮在することとたとへば雨の空に留まらざるが如く峯の石の谷へ轉ぶが如と云へり實に是の如くならば目下の日蓮黨如何程題目と唱へ誦經すると雖ども法華の怨敵と責めずしては熱湯地獄は勿論の事斯の如き日蓮が邪義妄辯は遂一錄内の書に證據あつて其の書數は百四十八通で四十一巻となり且つは錄外の書と云て二百五十九通が廿六巻あれども信用し難し其の故は人皇九十代後宇多帝の弘安五年壬午十月十三日が日蓮六十一歳にして武藏の國池上村に於て死去す然る處翌年一周忌に當つて六人の上足則ち。日昭。日朗。日興。日向。日頂。日持。連署して然して實書百四十八通と定め此の外にたとひ如

何程日蓮の質書出づると雖ども無間に宗内の目録に差し入るゝ事相成ずと申合せたる事疑ひなし其れ故に方今は唯録内の分計りと引證する者と見へたり然し日蓮が邪義妄説は是の如き事録内の書中に明々白々たるゝ何に故天下には斯の如き邪宗と立て置かるゝと云ふの疑念者もあるならん此の事や著者謂らく日蓮坊死後弘安六年癸未より百十一代後光明天皇の寛永十四年丁丑迄三百六十年来彼れ日蓮の末徒深く慎んで日蓮が遺書と秘して世間に散布せず只己が連黨のみ之と愛翫なて出ださざると以て諸宗門の碩徳及ひ其の筋じの人々迄も此

れ程の悪義妄邪の者とは思ふ者なし是れに依て政府にも恐れ乍ら穿鑿寛宥にて置かれし故に妻氣愈々深入の邪信黨これに共許し極悪不善嫉妬不徳の類此に同心なて漸々に全國各地に漫延して彼の黨類愈盛に興りたるなり然れども元来邪念妄執なる宗門故に大永年中山門の大衆武家と訴へて日蓮宗と追放なる又。延慶。天文。天正。明暦。の諸代々勅命と以て度々日蓮宗と追却せらるる去れども此の外道邪宗の全く斷滅せざる所以は是れ即ち天魔の所爲と謂ふ者也嗚呼夫れ思ふても尚淺猥敷事と云べし爰ゝ又後光明帝の寛永十四年丁丑三月廿八日に厳山の首

楞嚴院の沙門に真逆なるもの有り著書に其の名と得たる僧にて或る日破邪顯正記五巻。と著はして數百年来秘藏せる日蓮が遺書の邪義妄說と一々破却したる金城的鐵壁の良書なり元と真逆坊は日蓮宗の貫主にてありけるが四十年來宗旨の法門且つ彼れが口傳と悉く鍛練したる學者たりしに日蓮が惡義に疑念を起ゐ像に向て祈誓すること數月然れども更に應驗なきを以て一朝豁然大悟ゐて謗法の迷夢全く醒て終に日蓮宗と脫ゐて改宗し而して真宗の山門に歸依入學せり其の依る所は一心止觀の妙理にして其の弘むる所は惠心的流の念佛なりと云ふ其の頃日蓮宗の僧侶及ひ信者共真逆坊と罵詈する事淨々乎として止まゞ其れ故に真逆坊は改宗後四ヶ年目四十二歳にして破邪顯正記五巻と作りたる者と証して疑ひなゐ此れに依て彼の徒日領と云ふ僧が。本地義。及び格言と作る又日賢と云者が。論迷從宗決。及び別記と作る其れに續て日遵なる者が。論迷論。を作りて破邪顯正記。と返破せり日領。日賢。日遵。等の返破せる書を看るに取る所なし要するに糠に釘と云ふ論にして破邪顯正記。に對すれば大木に蟻の上下するが如く毫も破邪顯正記として痛ましむるの要なきなり只だ惜しむらくは貴重の時間と

費やしたるこそ不甲斐の至りならん然るに真言坊の弟子に真陽と云ふ者ありて後光明天皇の承應三年甲午十一月十日廿八歳の時に。禁斷日蓮義。と云書十卷と作て評破せしが其の當時彼の徒日題と云者が。中正論。廿卷と作る又日存なる者が。金山鈔。十六卷と作て。禁斷義。を會通せり其の後淨土宗より。摧碾再難抄。二卷を著出す彼の徒日達坊。愍論繫珠錄。七卷と作る日題なる者が。斷邪顯正論。五卷と作て。禁斷義摧碾再難抄。の両書に向て返駁せり其の後又淨土宗より。增上緣談義。と云ふ書と出す此れに當て日題坊。闢邪陳善記。五卷を作て破せりしかるより後越

中國圓滿寺の住僧義教なる者が。論客編。と作る又彼の徒よりは。念佛無間鈔。決權實義。を出すと間もなく僧義教は。輪駁行藏錄。五卷を著述して。權實義。を論破せり然ると日徒より。呵責謗法鈔。を作て難破すると又義教坊は。千五百條彈斥改。十卷を著して彈斥を了りたり日顯。經王金湯編。日曉。明義編。と作て。彈斥改。と會通致したり如是日徒と其の他餘宗と議論爭々立破の書卷數十卷ありて世に之を流布せり真月閑暇の日之を閲讀再三或は歴史に徵し或は古今の書に照して對檢するに彼れ日蓮宗より著たる會通之著書は悉く妄答妄破愚痴奸曲の嫉妬の邪論

のみにして一言半句も道理に合ひ真理に應ずるの處なくたて取る處少たに只た邪思妄辯と紙上に寫たて万代に穢名を披露たたる迄の者にたて實に水中の放屁論と云の外なきなり凡そ日蓮小僧が邪義妄想嫉妬分別の意旨は録内の百四十八通及往復の書置に明瞭かるゆへ苟も愛國護法の眼と有する仁人君士は之と見て自ら其の彼此の善惡正邪と知り玉へ然れども是非曲直を辨別せざる愚夫愚婦の類杯は稍もすると彼れ日蓮の邪曲手段に惑(マヨカ)されて終に邪念妄宗と信じて正法を誹謗するに至る悲むべし信徒の罪過に非ず導く日徒の罪なりと云ふべし然れ

ども著者は敢て法花宗の宗門を罵詈するに非ず只た現今の日徒が各宗と不和合と論し甚しきは擅上より各宗と誹謗敵視するの言行あると見るに忍ひず聞くに堪へざると以て上来聊か著者が嘆息の念慮と併せて彼れ邪徒の滅亡と論ずる也然れども日徒が之れと讀むと同時に改心し各宗は一佛教なる故に何れも和合最大と其の必要と感じ且つ今迄他宗を惡口せし結果其の善からざるの非と覺(サト)りて以て純良なる公平無私の法門を説くに至れば其の曉と共に著者が滅亡論も烏有に屬する者と知べし然れども尚一層の嫉妬と起すが如き場合に立ち至らば彼

等一々生きながら黄泉の客に墮さしめたかのみならず無人島へ放逐すると知れ日徒其れ能く考一考して見よ著者此の書と現行する却て汝ど日徒の爲め否な日蓮宗の爲めまは最大の幸福と云ふ者なれば妄想嫉妬の念と以て著者と恨むことなくんば流(ナス)石(カ)は菩薩道に住するはしくれの一人ならん其れ誓て妄想と脫し嫉妬心と除き邪思と捨て愚癡を離れて佛天の加護と得て早く真正なる衆生濟度の責任免許狀と請願すべしまからざれば永く墮獄の苦患盡未来際盡き果てる期かるべし著者近頃百花深き處の蓮生閣に留錫す不(レ)計蓮徒と談話に及ぶこと數日其の時捨邪皈正の者あり誠に國の爲めにも法の爲めにも賀する處戚れに上中下の冊子と綴つて深く彼の徒と教諭せんとす題して護國顯正日蓮滅亡論と云

護國顯正日蓮滅亡論序論終　以下本論に渡る

明治廿四年六月十八日印刷
仝　年仝月二十日出版

定價拾五錢

著述人　福岡縣福岡市荒戸町十五番地寄留　安田真月居士
原籍兵庫縣但馬國城崎郡豊岡町

發行人　仝縣仝市仝町十五番地寄留　土田盈藏
原籍宮崎縣宮崎町

賣捌所　福岡縣福岡市簀子町卅七番地　神儒佛書肆　相川錠吉

印刷者　仝縣仝市下名島町五十三番地　大隈壯太郎

活版及石版廣告

各位益々御萬福被遊奉慶賀候隨て弊所儀江湖諸彦の御愛寵により事業已に整頓致し奉鳴謝候就ては今這活字揩書（かいりよふじあり）明朝（ふれたるし）両様とも新に買入れ一層極美に印刷仕價格は低廉と專一とし神速調進可仕候殊に石版は技術も大に進歩し精巧に速製致し候間右御用陸續被仰付度伏て奉希上候百拜

各位

福岡市福岡下名島町五十三番地
活版石版印刷業　大隈活版所

特55
265

護国
顕正 日蓮滅亡論

国立国会図書館

020088-000-3

特55-265

日蓮滅亡論

安田 真月/著

M24. 6

ABH-0290